

楓葉



【2014年7月 同窓会誌】



独立行政法人 国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校同窓会

〒245-0063 横浜市戸塚区原宿3丁目60番2号
独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター附属横浜看護学校内
TEL 045-851-2621 TEL 045-853-8322 (学校直通)
発行責任者 相原 貴美子

同窓会近況



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
同窓会会長 相原貴美子

日頃より、同窓会活動にご理解、ご協力いただきまして、ありがとうございます。
同窓生の皆様におかれましては、ご健勝のことと思います。

6月7日役員幹事会がありましたのでその報告をいたします。
役員の前会長、会計の交替がありました。長年同窓会活動に尽力していただきました寺沢さん、伊藤さんが役員を降りることになりました。特に寺沢さんは聞いたところによると、同窓会との関わりは40年近いとのことでした。本当にありがとうございました。替わってニューフェイス3人が役員に加わります。平均年齢がかなり下がり、新しい風が同窓会に吹き込んでくれると期待しています。

いよいよ5年に1度の総会が来年に迫りました。平成27年6月6日に開催です。多数の参加お待ちしております。今回は総会に重きを置き、親睦会は縮小する予定で考えております。総会に合わせ、クラス会を企画するのはいかがでしょうか。

さて、会員の皆さんは同窓会活動をどれだけご存知でしょうか？
昨年度は、学生との触れ合いの機会を持ち、同窓会のアピールをするために楓葉祭に参加しました。今回誌にその模様を掲載しましたので、記事、写真等で雰囲気を感じとってください。また同窓会説明会は学校のご配慮のもと例年より早い時期に実施しました。説明会の済んだ後に、楓葉祭があったので、学生には同窓会活動をより印象づけることができたかと思います。今年度も同窓会説明会、楓葉祭参加を予定しています。学生と触れ合うこの機会に、ぜひ今年度は、会員の皆様の参加をお願いします。

学校と同窓会、同窓生相互間の絆の要として、同窓会活動は必要です。
同窓会の魅力を学生に伝えていき、横浜看護学校の発展のために、同窓会会員みんなで今後も活動していきたいと思っています。



49回生卒業式写真

ご挨拶



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
学校長 **工藤 一大**

病院敷地内の桜が見事に咲く暖かな4月4日入学式を行い、74名の新生を迎えることができました。また、私が初めて校長として迎えた2011年入学の49回生は、今年3月7日76名が無事に卒業式を迎え、そして嬉しいことに卒業生全員が看護師国家試験合格を果たすことができました。

神奈川県では看護専門学校、看護系大学・学部が毎年4施設程度増加してきており、募集人数が増加してきているためこの看護学校も応募人数が減少してきており、学生集めが困難になりつつあります。私の試算では、神奈川県の高校を卒業する女子学生の約8%分の学生定員となっています。この状況の中で優秀な学生を確保するために、何らかの対応・工夫が必要になっています。県内の高校に当校の教員が出向いて出張授業をしたり、学校案内をしたりしています。大学新卒業者や優秀な社会人受験者、男子学生受験者を増やす努力も必要と考えています。本学に入学した学生は3年間で神奈川県内の当院を含む国立病院機構5病院で臨地実習を行います。ご存知のようにこれらの病院はそれぞれ急性期、慢性期、神経難病、精神疾患、重症心身障害者医療、結核など多彩な医療を担っており、学生は幅広い領域の経験をすることができる、恵まれた環境にあると思います。さらに奨学金制度の充実をはかるなど学びへの受け入れ体制も整えて、多くの看護の道を志す元気で意欲的な学生の入学を求めています。皆様のご家族やお知り合いに看護師を目指している方がおられましたら、是非とも横浜看護学校を受験するように勧めていただきたいと思います。

看護学校と同じ構内にある横浜医療センターは、平成22年4月に新生なった病院建物での診療を開始して4年が過ぎました。横浜医療センターにおいても、今年も89名に及ぶフレッシュな看護師を迎え、その中横浜看護学校からは46人が就職してくれました。看護部の人員数は非常勤の16名を含めると573名にも及びます。

また総医師数143名、そして増員がなったパラメディカルスタッフなど大勢の新たな仲間を迎え、全職員数も1000人に近くなりました。これらの仲間と共に地域の患者の皆様により貢献できる体制を整えていきたいと考えております。

神奈川県がん診療連携指定病院、DMAT指定病院の指定を受け、ますます病院機能拡充強化し、三次までの救急患者を引き受ける救命救急センターを備えた急性期型高度総合病院として地域の方々や医療機関の期待に十分応えられる体制、設備を整えてまいりました。外来においては、ありがたいことに地域の診療所、病院からの紹介患者数が大幅に増加し紹介率は90%近くとなり、手術件数も年間4328件と大幅に増加しました。外来患者数、新入院患者数も順調に増加し、地域中核病院、地域医療支援病院としての役割を発揮し、地域完結型医療を目指して、地域の病院、診療所との連携を益々深めてきております。

近くにお住まいの方、また遠方にお住まいの方は東京、横浜方面に来られる際には是非とも一度母校と当横浜医療センターを見学においでください。大きく変わった見事な施設にきっと驚かれることと思います。

看護学校現況について



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
副学校長 **松橋 綾子**

同窓会の皆さまには、日頃より看護学校の運営にあたたかいご支援をいただき感謝申し上げます。
平成26年度4月3日（金曜日）は、横浜看護学校第52回生の入学式でした。今年は、74名の新生を迎え、大型校になり8年目をスタートしました。

医療・看護の現場では、急速に変化する社会に対応できる看護師育成が求められています。また、看護系の大学が増える中、専修学校での看護師教育の特徴と役割を明確にする必要がある時期のようです。文部科学省では、日本の職業教育の制度化へ向けて、「職業実践専門課程」を認定することとなりました。これは、「学校教育機関として社会のニーズに対応できる教育を行い、国家資格だけでなく地域のニーズを考え教育する価値ある学校であり、認定された学校で学んだ学生は、国際的評価対象であり国際的活躍が期待されている。」という意義とねらいに基づく認定制度のようです。横浜看護学校は、各専門分野の講師と実習施設に恵まれ、平成23年度より、21世紀の看護師教育へのチャレンジを続けています。昨年は、多様化する在宅看護と包括医療制度の学習を強化しました。実習施設・講師と連携し、社会の変化に対応したカリキュラムなどが認められ、横浜看護学校は、「平成26年度職業実践専門課程」の認定を受けることができました。また、学生の新たなチャレンジでは、自分たちで考えた「51回生誓いの言葉」を戴帽式に出席された皆さんに伝えました。今年の戴帽式では、52回生の特徴ある「誓いの言葉」が披露されることと思います。

学生の自立と自律を目指し、母体病院と同じ敷地にある看護学校としての特色を生かし、急性期医療をはじめ政策医療を担う看護師育成を目指していきたいと考えています。今年度も人事異動があり、梶原教育主事、水野教員、菅山教員、大平教員が転勤され、新たに渡邊教育主事、奥田教員、木村教員、野原教員の4名を迎え、新体制でスタートしています。今後とも同窓会のご支援を頂きながら教職員一同努力いたしますので、ご支援・ご協力をお願い致します。

最後になりましたが同窓会の益々のご発展を祈念致します。

看護部長挨拶 横浜医療センター看護部について



独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
看護部長 石川 典子

同窓生の皆様こんにちは。

平成26年4月1日に横浜医療センターに着任いたしました石川典子と申します。

縁あって神奈川県での勤務は2度目となり、前回は、国立病院機構神奈川病院に2年間勤務しました。看護師確保につきましては横浜医療センターの幹部の皆さんや、看護学校の諸先生方に大変お世話になりました。また、横浜看護学校運営委員の一員として入学試験の面接官もさせて頂き、その時の受験生が今では、横浜医療センターの看護師として元気に成長されていることに驚きを感じているところです。

当院は平成22年に新病院となり、横浜市南西部地域中核病院として質の高い看護、医療を提供することは地域住民に対する使命としております。さらに地域医療連携の強化を図り、これからの超高齢社会に対応できる医療機能分担を明確にしていかなければなりません。病院職員が一丸となって地域で選ばれる病院を目指して日々努力しております。

看護部においては、今までの募集活動の成果が現れ、北は東北から南は九州と看護師が集まるようになり、今年度は88名の新採用者を迎えスタートすることができました。

現在、看護職員の43%が横浜看護学校の卒業生となり、すべての看護単位において、副看護師長や専門・認定看護師、中堅スタッフとしてリーダーシップを発揮し、実習指導者やプリセプターとして指導に専念しております。それは、看護学校で学んだ 1.豊かな人間性 2.看護の対象を統合的に理解する 3.人々の健康と生活の理解 4.倫理観に基づいた行動 5.看護を実践するための基礎的能力 6.多職種の役割を理解したチーム医療 7.自ら学び続ける姿勢、などがあらゆる場面において生かされ、当院における看護実践を行う基礎となっています。そして今、看護部の原動力となつて、患者中心の看護を念頭に、温かい笑顔で心のこもった看護を提供しております。

横浜医療センターの看護師の定員数も513名と増え、関信管内の機構病院において2番目の規模になり、今まで以上に看護師の人材育成についてキャリアアップ支援体制の強化に努めてまいります。当院で働く看護職員が満足の得られる職場づくりと、横浜看護学校実習受入施設として看護学校と連携を深めていく所存です。

同窓生の多くが勤務する横浜医療センターは、引き続き看護学校同様に楓葉会を支援してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

横浜医療センター附属横浜看護学校同窓会の発展と会員の皆様のご活躍をお祈りしております。

楓葉祭に参加して

20回生 佐竹 一枝

平成25年11月30日（土）同窓会より会員6名が楓葉祭に参加しました。

台風直撃のため延期になっての開催でしたが天候にも恵まれ、体育館と1階ホールは現役看護学生と大勢の来客で賑わいました。

ホールにブースを借りて、映像と喫茶コーナーを設置しました。看護学生と父兄とふれ合うことで同窓会活動を知ってもらう機会にしたいと考え参加させていただきました。

初めての試みでしたので、学生は先輩の私たちと何を話してくれるのか、何か聞きたいことはあるのか、何よりもブースに来てくれるのだろうかと心配していましたが、学生の方から「皆さん先輩たちですか」と声をかけてきてくれました。映像に映し出される先輩の白衣姿や旧校舎を見て、学校の歴史を感じてくれました。病院や病棟を選ぶポイントなど多くの質問が聞かれました。我が子を心配しながらサポートしている父兄の方も来ていただきお話をすることができました。

ブースには途切れることなく学生が来てくれ、働いている先輩の話聞くことで自分の将来の姿を思い描くことができたように思います。私たちの経験を後輩に伝えられ、同窓生としての繋がりができたことは大変有意義だったと思います。

これからも、学生が学校に誇りを持てるような同窓会活動をしていきたいと思っています。



【6月7日 役員・幹事会の様子】



昨年の開校50周年に続き、同窓会誌の発行おめでとうございます。

私が旧国立横浜病院附属看護学校を卒業して、早30年以上の月日が経ちました。私は本校を卒業後、国立病院の臨床看護師を7年ほど経験し、現在は東海大学看護学科で初年次教育に関わっています。

当時の自分を思い起こすと、30年以上も看護の世界に身を投じているなんて想像もできません。学生時代の私は看護師への迷いや別の世界への憧れ、厳しいカリキュラムからの逃避、後悔等々、学校へ通うことが苦しい毎日だったことを覚えています。本当に看護師になるのか、自問自答の毎日でした。しかし、そのような中でも一生付き合える友人との出会いや現在もお世話になっている先生方からの教え、病院実習で体験した患者さんや家族との出来事が、私を今なお看護の道に踏み留まらせてくれる糧になっています。

あの当時、正門から左に桜並木をくぐり抜け200メートルほど行くと、大きな木々に囲まれた国立横浜病院附属看護学校がありました。建物は白い小さな2階建てでしたが、20歳代前後の多感な乙女たちの青春を受け止めてくれる大きな懐をもった暖かい学校でした。今はもう写真にしか残されていませんが、私たちの心の中にいつまでも刻まれています。

そんな学び舎での体験と出会いから得た看護の精神は、医療現場以外の場所で今も生かされているのだと思います。これからも、変わらず同窓生と共に歴史を刻んで欲しいと思います。



戴帽式のあと同級生らと外庭で（左から2番目）

平成26年度 役員

会長 相原 貴美子 (17回生)
副会長 佐竹 一枝 (20回生)
会 計 坂口 佳織 (36回生)
米澤 繁子 (10回生)
岩 竹 絵美 (42回生)

書記 小川 野上 光 子 (17回生)
霜 上 泰 史 (41回生)
志 村 耕 輔 (41回生)
濱 村 みどり (9回生)
法 子 (14回生)

会計監査

平成26年度 幹事

1回生	井坂 洋子	24回生	崎山 美	44回生	田村 佳世子
2回生	丸貴 ミサ	25回生	甲尾 ゆみ	45回生	佐勝 間田 春加
3回生	地蔵 テイ子	26回生	長尾 久栄	46回生	勝間 田渡 昌彩
4回生	神代 アキエ	27回生	富木 祐子	47回生	樋口 内木 本川
5回生	深石 みつ子	28回生	小内 由紀	48回生	坂寺 荒坂 藤
6回生	井上 文子	29回生	中野 史理	49回生	曾根 尻田 本川
7回生	稲垣 文子	30回生	小松 岡藤 林		中田 小山 岡
8回生	曾我 心恵	31回生	松仁 小川 巨		早川 新平 角
9回生	寺沢 秀代	32回生	仁小 川巨 伊		村新 平角 佐
10回生	米沢 繁子	33回生	小川 巨 坂		村新 平角 佐
11回生	小泉 幡崎	34回生	川巨 坂 池		村新 平角 佐
12回生	大岩 崎	35回生	伊坂 池 成		村新 平角 佐
13回生	濱戸 富志	36回生	坂池 成 佐		村新 平角 佐
14回生	関山 登美	37回生	池成 佐 々		村新 平角 佐
15回生	寺原 真佐	38回生	成佐 々 霜		村新 平角 佐
16回生	相村 松雪	39回生	佐々 霜 川		村新 平角 佐
17回生	村松 木枝	40回生	霜川 岩		村新 平角 佐
18回生	鈴木 竹裕	41回生	川岩 平		村新 平角 佐
19回生	佐竹 谷知	42回生	岩平 三		村新 平角 佐
20回生	熊江 小	43回生			村新 平角 佐
21回生					村新 平角 佐
22回生					村新 平角 佐
23回生					村新 平角 佐

横浜看護学校同窓会総会 開催のお知らせ

期日：平成27年6月6日(土) 11時～
時間は変更する場合があります
会場：横浜看護学校 4階視聴覚室

*多数のご参加お待ちしております。
幹事の皆様、総会に合わせ、クラス会を
企画してはいかがでしょうか？

《 幹事の役割 》

- 1.自分のクラスメートの住所把握：変更時や不明者の住所判明時は、役員に連絡。
- 2.幹事会への出席：年1回(6月第1土曜日)行なわれます。
事前にハガキで通知しますので必ず出席してください。やむを得ず欠席の場合は、責任を持って代理の出席者を立てて下さい。
- 3.同窓会事業への参加：同窓会便りの発行等、係りとして役員と共に関わる。
幹事交代時は、次期幹事を責任を持ち決定し、役員にお知らせ下さい。

住所変更届けのお願い

毎年同窓会機関誌「楓葉」を会員の皆様にお届けしております。
皆様に届きますよう、改姓・住所変更等ありましたら、同窓会本部までお知らせください。よろしくごお願い致します。

編集後記

今年49回生76名の新会員を迎え入れました。年々同窓会の輪が大きくなります。先輩同窓生の皆様よろしくお願い致します。

同窓会総会は5年に1回開催されます。前回は2010年でした。気が付けば、次回総会の開催が迫っていました。楓葉と同様に同窓会総会の案内等を会員の皆様にお届けしたいのですが、住所変更などでお届けできない方がいます。改姓・住所変更などありましたら楓葉表紙に表記されている同窓会本部までお知らせください。宜しくごお願い致します。

36回生 坂口佳織